様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ２７ 日現在

機関番号：２２６０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ００２６２

研究課題名（和文）20世紀前半中国における結核の社会史研究

研究課題名（英文）Social History of Tuberculosis in First Half of 20th Century China

研究代表者
福士　由紀（Fukushi, Yuki）

東京都立大学・人文科学研究科・教授

研究者番号：６０５８１２８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は20世紀前半の中国における結核の流行状況、その社会経済的背景、対策および患者をめぐる社会関係を検討することを通して、近現代期の中国の政治・社会経済の変化の中における人々の生活と健康との関係の一端を解明することを目的とした。研究実施期間を通して、以下を明らかにした。
（1）結核は都市部を中心に流行していたが、一部の農村でも問題化していた（2）農村での流行は都市との間の労働移動が原因の一つと考えられていた（3）30年代以降、都市では結核療養所や専門医院が作られたが、それらが全国的に普及するのは人民共和国建国以降だった（4）家族や友人といった近親者が療養において大きな役割を担った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究の学術的意義は、近現代中国における社会経済的変化とそれに伴う人びとの暮らしの変化の中で疾病の歴史を位置づけたことにある。本研究では、結核という慢性感染症に着目することによって、人びとの日常生活史と疾病史を結び付けて議論することを試みた。
　結核は、本研究で扱った20世紀前半の大部分の時期において、決定的な治療方法が確立していなかった。こうした中で人びとがどのように結核に向き合い、対処しようとしてきたのかを明らかにすることは、健康をめぐる人類の歴史の一端を解明することにもつながるものである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to elucidate some aspects of the relationship between people's lives and their health in the context of political and socioeconomic changes in China during the modern era by examining the prevalence of tuberculosis in China in the first half of the 20th century, its socioeconomic background, countrol measures, and social relations surrounding patients.Throughout the study period, the following were identified. (1) Tuberculosis (TB) was prevalent mainly in urban areas, but also became a problem in some rural areas (2) The rural epidemic was thought to be caused in part by labor migration to and from the cities (3) TB sanatoriums and specialized clinics were established from the 1930s in some cities, but they did not spread nationwide until the founding of the People's Republic (4) Close relatives such as family and friends played a major role in the treatment of patients.

研究分野：中国近現代史

キーワード：結核　中国　医療　衛生　社会経済　肝油　栄養

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、近現代期の中国における疾病・医療・衛生に関する歴史研究は大きく進展してきた。近現代期の中国における医療・衛生・疾病に関する研究は、主に以下の論点をめぐって検討されてきた。
（1）感染症対策としての医療・衛生と統治権力との関係に焦点をあてた議論[1]、（2）疾病・医療・衛生をめぐる国家＝社会関係に焦点をあてた議論[2]、（3）医療をめぐる伝統と近代の関係に焦点をあてた議論[3]。これらの諸研究により、近現代期の中国における近代性の導入と普及をめぐる歴史状況が明らかにされ、医療・衛生制度の歴史的展開や人びとの健康問題を考える上での重要な知見がもたらされてきた。従来の研究の多くは、国家や専門家（医師や行政官など）にとっての疾病・感染症経験やそれへの対応を主たる検討対象とするものであった。しかし、当然、疾病や感染症は国家や専門家の経験であると同時に、患者や患者家族、社会にとっての経験でもあった。個人的・社会的経験も含めた疾病の歴史叙述を行うことにより、疾病・医療・衛生を通した、より立体的な近現代中国社会像を描くことができるのではないか。これが本課題の研究開始当初の背景であった。

２．研究の目的

そこで、本研究では、20 世紀前半の結核に焦点をあて、その流行状況、流行の社会経済的背景、対策および患者をめぐる社会関係の歴史的変遷を検討することを通して、近現代期の中国における政治・社会経済環境の変化およびその中での人びとの生活と健康の関係の一端を解明することを目指した。

３．研究の方法

本研究では、（1）20 世紀前半の中国における結核の流行状況、（2）流行の社会経済的背景、（3）結核対策、（4）患者をめぐる社会関係の 4 点を、文献調査によって検討した。

４．研究成果

（1）20 世紀前半の中国における結核の流行状況：
当該時期の中国においては、統計事業の不備により、全国的な流行状況を正確に把握することは困難である。だが、一部の都市においては生命統計をもとにおおよその死亡率が把握されており、1930 年代前半、結核による死亡率はおおよそ 10 万人あたり 300 程度と見積もられていた。同時期の日本における死亡率の 187 と比べると高い数値であり、当該時期の中国では結核は社会問題として認識されていた。また、各地の病院の患者記録を基とした地域的な流行状況に関する 1920～30 年代の医学研究によると、北方地域は南方地域に比べ患者が多く、患者の年齢層では 15～34 才の青壮年層、職業としては屋内労働従事者が多いとされていた。都市と農村部を比較した研究も行われており、都市部が農村部に比べ患者が多いと認識されていたが、交通機関の発達にともない都市との行き来が盛んな一部農村では、都市と同様に結核が常見される疾病で、主要死因の一つでもあった[4]。

（2）流行の社会経済的背景：

---

[1] 飯島渉『ペストと近代中国』（研文出版、2001 年）；張泰山『民国時期的伝染病與国家』（社会科学文献出版社、2008 年）；Ka Che Yip., *Health and National Reconstruction in Nationalist China*, Michigan University, 1995 など。

[2] Ruth Rogaski, *Hygienic Modernity*, University of California Press, 2004; 福士由紀『近代上海と公衆衛生』（御茶の水書房、2010 年）；楊念群『再造病人』（中国人民大学出版社、2006 年）など。

[3] R.クロイツァー『近代中国の伝統医療』（創元社、1994 年）；何小蓮『西医東漸與文化調適』（上海古籍出版社、1994 年）：帆刈浩之『越境する身体の社会史』（風響社、2015 年）など。

[4] 福士由紀「農村における結核と労働移動」（内山雅生編『中国農村社会の歴史的展開』御茶の水書房、2018 年）。

欧米や日本では、結核は都市化や工業化によってもたらされる「社会病」として議論されてきたが、中国においては伝統的な家庭生活や習慣を原因とする「家族病」として枠組み化された。換気の悪い住居での大家族の同居、洗面用具や食器の共有、一つの皿の料理を大勢でつつく食事方式、一つの寝台やオンドルで家族が一緒に就寝する習慣、所かまわずに痰を吐く習慣などが結核の蔓延を助長する原因とされ、改善対象とされた[5]。

近代期、多くの医師たちにより、家庭が最も危険な感染源だと指摘されていたが、学校や病院、職場もまた結核感染をもたらす環境として考えられていた。都市への労働移動が盛んな一部農村では、都市での徒弟労働中の集団生活により感染し、帰郷によって農村へ結核がもたらされる傾向も指摘されていた[6]。

（3）結核対策：

肺結核患者を収容する療養所は 19 世紀末から医療宣教師などにより設立され、1920 年代以降、都市部では中国側の経営による公立・私立の療養所が設立されていた[7]。だが国家が広範に患者の把握を進め、治療を行うようになったのは 1950 年代以降のことだった。中華人民共和国成立以後、都市部では医療施設の調整が行われ結核防治所を中心とした療養所・診療所・総合病院の医療ネットワークが作られた。また職場や学校での検診による患者の発見、BCG 摂取などの対策も行われた。1956 年の「全国農業発展綱要」および同年の衛生部「関於結核病防治工作」は、こうした積極的な結核対策の画期とされる。治療面でも 1950 年代以降、ストレプトマイシンのような抗生物質が使用されるようになった[8]。

こうした国家による結核対策が実施される以前においては、防癆協会（1933 年設立）や民間団体、衛生行政機構による結核予防治療に関する啓蒙運動が盛んに行われていた。啓蒙運動の中では、結核がどのような疾病かの紹介や吐痰や食器の共有といった習慣の改善の宣伝だけでなく、期間限定の無料あるいは安価なエックス線検査なども行われていた[9]。

治療面に関しては、ストレプトマイシンが発明される以前は休息と栄養食による療養が主であったが、19 世紀末以降、消費文化とマスメディアの発達により、肺結核予防治療の効果をうたった「補品・補薬」への需要が高まった。肝油はその代表的なものの一つであり、1920 年代以降、ビタミン知識の普及とあいまって都市中間層を中心に人気を博した[10]。

（4）患者をめぐる社会関係

結核は患者本人のみならず、その近親者にとっても日常の大きな問題であった。本研究では、「結核が問題として共有される人間関係」の範囲を検討するために、防癆協会の機関誌である『防癆』誌上に掲載された「癆病顧問」という読者と結核専門医による Q&A コーナーおよび各種雑誌に掲載されていた同様の健康問題に関する Q&A コーナーを対象に、どのような人が結核問題を医師に相談するのかの初歩的考察を行った。その結果、患者本人以外に、患者家族（兄弟姉妹、両親、子ども）のほか、患者の友人、同僚なども相当数質問をしていることが確認できた。これは、患者との親密さ以外に、職場や学生寮などで患者と空間を共有していた可能性が考えられ、居住形態、労働形態と日常的「健康問題」の共有状況について考察するための糸口となるものと思われる。

---

[5] Sean Hsiang-lin Lei, “Habituating Individuality”, *Bulletin of the History of Medicine*, 84(2), 2010.

[6] 福士由紀、前掲論文。

[7] 瞿艶丹「近代中国における肺結核問題」（京都大学博士論文、2020 年）

[8] 鍾球・唐大譲主編『広東防癆史志』（広東人民出版社、2001 年）

[9] 福士由紀『近代上海と公衆衛生』（御茶の水書房、2010 年）

[10] 福士由紀「健康の売り文句」（福士由紀・市川智生・アレクサンダー・R・ベイ・金穎穂編『暮らしのなかの健康と疾病』東京大学出版会、2022 年）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 福士由紀	４．巻 1003
２．論文標題 感染症をめぐる中国近現代史研究	５．発行年 2020年
３．雑誌名 歴史学研究	６．最初と最後の頁 48　56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 福士由紀	４．巻 -
２．論文標題 農村における結核と労働移動	５．発行年 2018年
３．雑誌名 内山雅生編『中国農村社会の歴史的展開』	６．最初と最後の頁 45－61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　2件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 福士由紀
２．発表標題 Nutrition and Health in Modern China
３．学会等名 International Conference, Modernity and Health in East Asia（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 福士由紀
２．発表標題 「健康」の歴史研究の試み
３．学会等名 第86回日本健康学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 福士由紀
２．発表標題 中国の感染症とナショナリズム
３．学会等名 新型コロナウイルス感染症と国民国家/ナショナリズム（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 福士由紀
２．発表標題 『申報』掲載の栄養補助食品からみる身体・家庭・社会
３．学会等名 NIHUエコヘルス「健康の歴史性」研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 福士由紀
２．発表標題 「健康」の売り文句：『申報』掲載の肝油広告に関する初歩的分析
３．学会等名 第84回日本健康学会　連携研究会セミナー
４．発表年 2019年

１．発表者名 福士由紀
２．発表標題 近代華北農村における結核と人びとの暮らし
３．学会等名 Asian Society for Social History of Medicine
４．発表年 2018年

〔図書〕　計1件

１．著者名 福士由紀・市川智生・アレクサンダー・R・ベイ・金穎穂編	４．発行年 2022年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 278
３．書名 暮らしのなかの健康と疾病：東アジア医療社会史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関